

How is Kumako?

熊谷高校とは

本校の校訓

質実剛健 文武両道 自由と自治

この校訓のもとで生徒は活発に活動

熊高の三本の矢

学業 部活動 学校行事

「熊高の三本の矢」に全力投球することで人間力を育成

中学生の皆さん

伝統ある本校で将来の夢を語りながら、

大きく成長してください

校長 武内道郎



学業

➡ **本校は、何よりも授業を大切にしている学校です。**

学校は、学びの場です。本校は、年間17回の土曜授業の他、長期休業中の補習授業、また普段の朝補習、部活動終了後の夜補習、あるいは図書館での夜の自主学習など、様々な学習機会を提供しています。さらに平成28年度入学生から単位制を導入することで、少人数の授業を増やし、生徒の進路希望を見据えた授業を展開しています。

部活動

➡ **運動部・文化部・愛好会など、部活動が活発に行われています。**

昨年は、全国大会に水泳部、ソフトテニス部、陸上競技部、スキー部が、関東大会に軟式野球部、水泳部、ソフトテニス部、陸上競技部、スキー部が出場しました。19の運動部の中には、県大会などで活躍する部活動もあります。13の文化部、9つの愛好会も多く、多くの部が県大会などで優秀賞や金賞に輝いています。ほとんどの生徒が何らかの部活動に参加しています。中学生の皆さん、本校の部活動を見学し、体験してみてください。

学校行事

➡ **中学校では体験できない学校行事がたくさんあります。**

入学してまず驚くのは校歌練習です。応援団が中心となり、校歌を覚えるまで練習します。次にやってくるのが、40キロハイクです。荒川の河川敷から上長瀬駅まで40キロを走破します。春の季節を満喫できるハイクです。そして、1学期の終業に合わせて新潟県の鯨波海岸で行われる臨海学校です。この臨海学校を経験することで真の熊高生となります。他にも、文化祭、体育祭など様々な学校行事があり、その締めくくりは、生徒達が肩を組みながら校歌を高らかに歌い、友とやり遂げた達成感を味わっています。中学生の皆さんも一度この様子をご覧ください。



進化する熊谷高校

日本や世界のリーダーを育てるために一人一人の可能性を伸ばします

将来の日本をリードする品格あるたくましい人材の育成のために、科学的探究心、国際性、発信力の育成を図り、未来を切り拓く知性と創造力を育てます。

■ SSH [スーパーサイエンスハイスクール] 指定校 (平成29～33年度指定)

- 1年全員の生徒を対象とした「つくばサイエンスツアー」で最先端の科学技術に触れることで、将来の進路への指針になります。
- 大学・研究機関との連携・野外実習を実施し、校内では体験できない様々な活動を行います。
- 熊高版論理的思考力テストや各種テストの実施により、思考力・発信力を測定します。
- 1・2年生を対象にプレゼンテーション講座を実施し、自らの考えや成果を発信する手法を学びます。
- 全国SSH指定校が集まる「SSH全国発表会」に参加し、自らの研究成果を発表するとともに他校の生徒と交流します。



■ 骨太のリーダー育成事業指定校

県が主催する知の基盤形成事業(世界の哲学・芸術文化アカデミー・スポーツ教養セミナー・トップアスリートによる講演会・被災地訪問などの社会貢献セミナー・最先端研究施設訪問・医学部進学講座等)への生徒派遣、参加した生徒が全校生徒への報告会を実施し成果を普及させることで、骨太で品格のあるリーダーを育てます。

■ 近未来学校教育創造プロジェクト指定校

本校にタブレット端末が40台整備されています。タブレット端末を利用した授業などICT教育がより充実したものとなっています。また、インターネットに接続することで熊高ゼミをはじめとする課題研究への活用が可能となっています。

■ 学習活動

- 少人数授業(国語・数学・英語)や習熟度別授業により、きめ細かい指導をおこないます。
- ICTの活用により、従来とは違った形での授業を実施します。
- グループごとの討論を通して正解を導き出す協調学習を取り入れ、講義形式とは違う授業を展開します。
- 小論文・作文などの記述指導(国語・社会・英語)や実験レポートの添削(理科)による表現力・記述力の養成を目指します。
- 熊高ゼミの探究活動から論理的思考力や発信力の養成を目指します。

■ 国際交流(SBHS)事業

ニュージーランドSBHS(Southland Boys' High School)との兄弟校の提携により、隔年でSBHSへ訪れ12日間のホームステイを行います。翌年にはSBHSの生徒が本校へ訪問。現地校の授業参加(言語体験)+ホームステイ・課外活動(異文化体験)を通して人々との交流を深め、豊かな国際感覚と広い視野を育成します。

